

Sound Emotion

きづいてほしいの

カナ

先生

あかね

■学校・廊下

カナ 「せーんせつ！」

先生 「おお、カナか。どうした？」

カナ 「今日はなんの日でしょう？」

先生 「あー悪い、先生いま忙しいんだ。」

カナ 「ええー、つまんないの。じゃあ、いつだったら聞いてくれる？」

先生 「そうだな・・・また、あとでな。」

カナ 「うー。」

あかね 「ふふ、カナってば、またストーリーカーしてるんだ？」

カナ 「ちよ、人聞きの悪いこと言わないでよ！」

あかね 「そんなにアタックしてるのに、ぜんぜん振り向いてくれないなんて。つらいよね。」

カナ 「あ、あなたには関係ないでしょ！」

あかね 「関係ないかな。そうかな。」

カナ 「なにか言いたげな顔してるわね。」

Sound Emotion

あかね 「ま、知らないほうがいいこともあるよ。せいぜいがんばって。」

カナ 「なによそれ・・・ってちよっと！話を勝手に終わらせないでよ・・・ったく、なんだってのよ、もう。」

■学校・教室

SE 終業のチャイム

先生 「じゃあ続きは次回。教科書で言うと45ページからだな。

しつかり読んどけよ。」

カナ 「せーんせつ！」

先生 「なんだまた来たのか。今度はどうしたんだ？」

カナ 「さつき答えてもらえなかったから、もう一回ね。今日はなんの日・・・」

先生 「あ！ああー！このあと大事な会議があるんだった。悪い、またな。」

カナ 「なにそれ！先生わたしのこと避けてるでしょ！」

先生 「そんなことあるわけないじゃないか。先生にもいろいろとあるんだよ。」

カナ 「いろいろって・・・そのいろいろに、わたしもまげてくれたっていいじゃない！」

先生 「いや、もちろんカナのことだってちゃんと考えてるぞ。」

カナ 「えっ・・・」

先生 「だから、また今度、時間あるときに聞くから。な。」

Sound Emotion

カナ 「・・・ちがうのよ先生、今日じゃなきやダメなの！」

先生 「いけない、時間だ。」

カナ 「もう、せんせい！ 行っちゃった・・・。」

あかね 「逃げられちゃったね、ストーカーさん。」

カナ 「うう、なによ、あなたこそわたしにストーカーしてんじゃないの？」

あかね 「ふふ、そうかもね。迷惑だった？」

カナ 「べつにそういうわけじゃないけど・・・。」

あかね 「だったらいいじゃない。で、なんの日なの、今日って。」

カナ 「それはっ、わたしと先生だけのヒミツよ！」

あかね 「ふーん、先生はわかってなさそうだったけど。」

カナ 「いいえ、先生が知らないはずないわ。知っててわたしを避けてるのよ。ぜったい。」

あかね 「考えすぎじゃない？」

カナ 「だって、そうとしか思えないわ！」

あかね 「そう。まあいいけど・・・30分後。」

カナ 「え？」

あかね 「30分後、先生は屋上にいるはずよ。」

カナ 「どうしてあなたが知ってるのよ。」

あかね 「さあ。あたしと先生だけのヒミツ、かな？」

カナ 「・・・ふざけるのもいいかげんにしてよ。」

あかね 「まあ、信じる信じないはカナ次第ね。じゃ、がんばって。」

カナ 「あ、ちよつと！ なんなのよ、一体！・・・。。気
に食わないけど、ほかに心当たりもないし、いいわ、行っ
てやるわ！ これでもしいなかったら・・・覚えときなさ

いよ、もう！」

■ 学校・屋上

カナ 「はあー、待っていると時間経つのおっそいよね。もう、本当に来るのかしら。わたし、やつぱりだまされてる・・・？」

S E ドア開く

S E 足音

カナ 「あ、来た！！！ え、ちよっと、どうしよう！」

S E 足音

カナ 「・・・って、あかね！？ なんてあかねが先生と一緒にいるのよ。まって、どうということ？？」

カナ 「とつさに隠れちゃったけど、これじゃここまで来た意味ないじゃない。うー、がんばれわたし。だいじょうぶ、こわくないわ。先生とあかねがどんな関係だろうが、わたしの知ったことじゃない。第一、ここに来るのを教えてくれたのはあかねなんだし、一緒にいたってぜんぜん不自然なかじゃないわよね。わたしはわたしがしたいことをするだけ。こわくない、こわくない、こわくない・・・！！！」

Sound Emotion

カナ 「まって、あかねいなくなってるんだけど！！わたしの心の準備返して！……ううん、よくよく考えたらかえって好都合じゃない。いるのは先生だけ。わたしは話しかけさえすればいい。単純明快なことよ！よし……よしっ、行くぞわたしっ！」

SE 足音

カナ 「せーんせっ！」

先生 「ん？ おお、カナ。よくここにいるのがわかったな。」

カナ 「ふふん。わたしの情報網にかかれば、そんなことくらいわからないわ！」

先生 「ん、ああ、そうか。でも、ちょうどよかった。じつは先生もカナに用があつたんだ。」

カナ 「えっ……？」

先生 「なんだか当ててみるか？」

カナ 「そ、そんなの、わかるわけないじゃない。」

先生 「はは、それもそうか。じつはな……。」

カナ 「まって、まって！ まだ心の準備が！」

先生 「カナが作った交通安全標語、市内で最優秀賞に選ばれたんだ！」

カナ 「……ふあ？？」

先生 「さっきの会議も、その件についてのことでな。それまで確定してなかったし、期待だけさせて結果ダメだったらかわいそうだから、なにも言わずにいたんだよ。」

Sound Emotion

カナ 「え、あ、うん。」

先生 「顔が完全に豆鉄砲くった八トになってるぞ。そうそう、明日の全校集会で表彰することになったから、心の準備、しておけよ。」

カナ 「ふええ！？ あ、うん、はい。」

先生 「よし、じゃあ明日に備えて早いとこ帰れ帰れ！ 寄り道するんじゃないぞー！」

SE 足音

カナ 「え、あ・・・ああー！！ 行っちゃった・・・。」

カナ 「えーん、今日誕生日なんだよ、先生！ プレゼント、あげそこなっちゃったじゃない・・・。なんか、一気につかれちゃった。いいわもう、帰ろ。」

SE 足音

あかね 「・・・せっかく絶好のチャンスをおげたのに、失敗しちゃうたか。はあ、キューピッド役も、楽じゃないよね。ま、そこが楽しいところもあるんだけど。」

SE 足音